

## 中央環境審議会大気環境部会（第33回）の議事要旨について

### 【本諮問の検討範囲等について】

- 本諮問（今後の揮発性有機化合物の排出抑制対策の在り方）の検討事項に、光化学オキシダント等が入っていない。
- 本諮問の排出抑制対策とは、移動発生源を除き、固定発生源を対象としたもの。
- 本諮問を超えた御意見も踏まえ、場合により、新たな専門委員会の設置の提案も考えられる。

### 【VOC排出抑制のメリット及び課題】

- VOC排出抑制対策は順調に進んでおり、作業環境等に対してもよい影響を与えている。一方、アウトサイダーの問題など課題は多い。

### 【光化学オキシダント対策について】

- 光化学オキシダント対策として、国際的な取組が必要
- 光化学オキシダント調査検討会報告書の対策効果の評価を充実させる必要あり

### 【VOC対策と光化学オキシダント及びPMの関係について】

- 今回のVOC排出抑制対策は、光化学オキシダントやPM対策を狙った形で実施してきたが、これまで、明確に対策の効果を評価する形がとられてこなかった。
- VOC対策はVOC対策という観点だけでなく、光化学オキシダントやPM<sub>2.5</sub>等の全体を考えた形での今後の対策が進められる方向に行くことを期待したい。

### 【今後の検討課題】

- オキシダントやVOCは、別々の委員会で検討するのではなく、一緒の形で検討していかないと最終的な対策効果につながるところへはいかないであろう。
- 光化学スモッグの発生メカニズムは以前と比べると大きく変わってきている。アジアからの越境問題も取り上げられている中、大気汚染防止法第23条に基づく緊急時の措置の内容についても今後、併せて検討願いたい。